

シンポジウム（第2回）

歯学士教育課程での プロフェッショナルリズム教育の構築

会期：平成24年11月17日(土)10:00～17:00

18日(日) 9:00～12:00

会場：九州歯科大学 講堂・本館

(北九州市小倉北区真鶴2丁目6-1)

主催：九州歯科大学 総合診療学分野

協賛：北九州市 及び

(公財)西日本産業貿易コンベンション協会

ご挨拶

九州歯科大学 総合診療学分野
教授 寺下正道

歯学におけるプロフェッショナルリズム教育を考えるシンポジウム(第1回 歯学士教育課程でのプロフェッショナルリズム教育の構築)を昨年の5月に開催しました。日本の医療人育成にプロフェッショナルリズム教育の必要性を自覚し、各大学で種々の取り組みを開始した時期でもあり、「プロフェッショナルリズム教育とは」との問いかけに、解答を得ることを目的にしています。ご講演いただいた先生に心からお礼申し上げます。

医療人におけるプロフェッショナルリズム教育はその定義や必要性を理解させても全く意味はありません。学習者が医療で実践することにその存在価値があります。今回、「プロフェッショナルリズムをどう教育するのか」をテーマに第2回のシンポジウムを開催いたします。今回は日本のプロフェッショナルリズム教育の指導的立場の先生のご講演だけでなく、新たに参加者で討論するワークショップを企画しています。

歯科医療を志す学生が医療の現場でプロフェッショナルリズムを実践することを目標とした教育を構築する必要性について皆で討議し、その解答を得るきっかけになることを望んでいます。

シンポジウムの企画について

九州歯科大学 総合診療学分野
准教授 木尾哲朗

「プロフェッショナルリズム」は下図に示すように欧州や米国の歯科医学教育学会が作成した卒業時に習得すべきコンピテンス(行動する能力)の大領域に挙げられています^{1), 2)}。

この「プロフェッショナルリズム」という言葉は改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムには出てきませんが、歯学および医学教育のモデル・コア・カリキュラムの冒頭に書かれている「歯科医師(医師)として求められる基本的な資質」の8項目はまさにプロフェッショナルリズムの一部であろうと思われます。しかしながら、プロフェッショナルリズムに関する議論は日本の歯科医学教育界では緒に就いたばかりであり、共通認識を得るまでには十分な議論が必要とされています。

第1回シンポジウムで議論されたプロフェッショナルリズムの意義、その時代的・文化的相違等を踏まえた上で、今回、プロフェッショナルリズムとその教育について考える場として第2回シンポジウムを企画しました。初めての試みとして、2日目にはワークショップを企画しました。参加者の皆さまと一緒にプロフェッショナルリズム教育について考えたいと思います。

【欧州歯学教育学会(09年)】¹⁾

- I. Professionalism
- II. Interpersonal, Communication and Social Skills
- III. Knowledge Base, Information and Information Literacy
- IV. Clinical Information Gathering
- V. Diagnosis and Treatment Planning
- VI. Therapy: Establishing and Maintaining Oral Health
- VII. Prevention and Health Promotion

【米国歯科医学教育学会(08年)】²⁾

- I. Critical Thinking
- II. Professionalism
- III. Communication and Interpersonal Skills
- IV. Health Promotion
- V. Practice Management and Informatics
- VI. Patient Care

1) Profile and competences for graduating European dentist- update 2009. より抜粋

2) Competences for the New General Dentistより抜粋

概 要

1. 対象者: 歯科医療者養成機関教職員、歯科医療者、プロフェッショナリズム教育関係者
2. 開催日時: 平成24年11月17日(土)10時～17時
18日(日) 9時～12時
3. 開催場所: 九州歯科大学講堂、本館(401講義室、チュートリアル室)
北九州市小倉北区真鶴2丁目6-1
4. 主催: 九州歯科大学総合診療学分野
5. 協賛: 北九州市 及び (公財)西日本産業貿易コンベンション協会

6. スケジュール

【1日目:11月17日(土)】

9:30 受付開始 (講堂)

10:00 開会あいさつ

10:10 シンポジウム趣旨説明

10:20～12:10

セッション1 医療人プロフェッショナリズム

特別講演1: 座長 小川哲次 (広島大学病院教授)
「医療人プロフェッショナリズムとその教育の世界的潮流」
大西弘高 (東京大学 医学教育国際協力研究センター 講師)

特別講演2: 座長 寺下正道 (九州歯科大学附属病院長)
「哲学倫理学からみた医療人プロフェッショナリズム」
柳澤有吾 (奈良女子大学人文科学系研究院 教授)

13:20～16:25

セッション2 医療人プロフェッショナリズム教育

特別講演3: 座長 西原達次 (九州歯科大学 理事長・学長)
「医療プロフェッショナリズム教育 ～理論と原則～」
宮田靖志 (北海道大学病院 卒後臨床研修センター 特任准教授)

特別講演4: 座長 俣木志朗 (日本歯科医学教育学会理事長)
「歯学教育における螺旋型プロフェッショナリズム教育のススメ」
木尾哲朗 (九州歯科大学 准教授)

特別講演5: 座長 富永和宏 (九州歯科大学附属病院副病院長)
「医療人プロフェッショナリズム教育は必要か」
藤崎和彦 (岐阜大学医学教育開発研究センター 教授)

16:30~17:00

セッション3 総合討論

座長 小川哲次 (広島大学病院教授)
木尾哲朗 (九州歯科大学准教授)

17:00 事務連絡

18:00 懇親会

【2日目:11月18日(日)】

8:30 受付開始 (本館4階 401講義室)

9:00 セッションの説明

進行 木尾哲朗(九州歯科大学 准教授)

Keynote Speaker 宮田靖志 (北海道大学病院卒後臨床研修センター 特任准教授)

9:30~12:00

セッション4 ワークショップ

グループ討論

グループ間討論

グループ討論

全体討論

テーマ1 プロフェッショナリズムを考えよう

テーマ2 プロフェッショナリズムの教育は必要か

テーマ3 プロフェッショナリズムをどう教育するのか

テーマ4 なぜプロフェッショナリズムが問題となるのか

12:00 アンケート

閉会あいさつ

セッション1 医療人プロフェッショナリズム

特別講演 1

座長 小川哲次 (広島大学病院 教授)

医療人プロフェッショナリズムとその教育の世界的潮流 Professionalism Education for Health Professionals and Its Global Trend



東京大学 医学教育国際協力研究センター 講師

大西 弘高

聖職や専門職とされる業種がどうあるべきかが、プロフェッショナリズムの本来の定義である。しかし、医師のプロフェッショナリズムの議論が高まったのは、米国でマネジドケアが拡大した1980年代半ば以降である。マネジドケアは、医療費の高騰に対し、医療保険支払い抑制を主目的に行われた改革の中心であった。改革当初は高収入の医師集団に批判の矛先が向けられたが、徐々に矛先は医療の改悪をもたらした医療保険組織に移された。それと共に、経済原理よりも利他主義的な聖職の本質を追求する形の懐古主義的プロフェッショナリズムが重視されるようになったと、Haffertyは述べている。医療の市場原理がどんどん強まる中で、医師集団が自らの在り方を教育で変えようという意識を強め、プロフェッショナリズム教育にも注目が集まった。この経緯から、プロフェッショナリズムにおいて、個々の医療専門職の倫理という観点に加え、医療専門職の集団や組織としての透明性や説明責任が重視されるようになった。

プロフェッショナリズム教育を行う際、ロールモデルの行動は潜在的カリキュラムとして影響力が大きい。しかし、懐古主義的プロフェッショナリズムは、建前に終わりがちで、ネガティブな潜在的カリキュラムの源泉となりやすい。全ての教員が、素晴らしい臨床能力、教育スキル、人間的資質を併せ持つことは非現実的であり、現実を直視しつつ、改善できるような方略がベターであろう。

世界的潮流としては、アウトカム基盤型教育、省察的実践 (reflective practice) の重視、重大事象や事例シナリオの利用などが挙げられる。非プロフェッショナルな行動を戒めるためのfitness to practice (FTP) は英国連邦系の国々で利用され、犯罪歴や自身の健康問題への対応が行われている。低い出席率、評価票の未提出、ワクチン未接種といった単純な問題をFTPに含めるか否かは施設によって異なる。

いずれにせよ、最善の教育を唯一のものとして示すことは不可能である。プロっぽい行動を表面的に身に付ける教育と、素晴らしい臨床能力・教育スキル・人間的資質を同時に追求する教育のどの辺りを狙うかを個々の施設が考慮し、創意工夫する必要があるだろう。

おおにしひろたか

大西弘高 先生 プロフィール

略歴

- 1992年 奈良県立医科大学卒業
- 1992-97年 天理よろづ相談所病院で初期および後期研修 (総合内科)
- 1997年より 佐賀医科大学附属病院総合診療部
- 2000-02年 イリノイ大学医学教育部で医療者教育学修士課程修了
- 2003-05年 国際医科大学(マレーシア)医学教育研究室
- 2005年より 東京大学医学教育国際協力研究センター

主な著書

- ・ 実例からみる卒後臨床研修 (篠原出版新社)
- ・ PBLチュートリアルガイド (南山堂)
- ・ 新医学教育学入門 (医学書院)
- ・ 医療コミュニケーション実践マニュアル (ぜんにち出版)
- ・ 困りがちなあんな場面こんな場面での身体診察のコツ (羊土社)
- ・ The 臨床推論 (南山堂)

訳書

- ・ 医学教育プログラム開発 (篠原出版新社)
- ・ 外来で教える (南山堂)
- ・ よくある症状・見逃せない疾患 (MEDSI)
- ・ PBL:世界の大学での小グループ問題基盤型カリキュラム導入の経験に学ぶ(篠原出版新社)
- ・ セイントとフランスの臨床実習・研修ガイド -診察の仕方から業務のコツまで- (丸善)

現在

日本医学教育学会理事
日本プライマリ・ケア連合学会代議員
日本医療教授システム学会理事および学会誌編集委員長
共用試験医学系OSCE事後評価解析小委員会解析担当委員
など

JICAアフガニスタン医学教育プロジェクト
ラオスセタティラート病院教育研究推進プロジェクト
でチーフアドバイザーを務めた

セッション1 医療人プロフェッショナリズム

特別講演 2

座長 寺下正道 (九州歯科大学附属病院長)

倫理学からみた医療人プロフェッショナリズム
Medical Professionalism from an Ethical Point of View

奈良女子大学 人文科学系研究院 教授

柳澤 有吾

21世紀を迎えてプロフェッショナリズムが注目を集めているが、「専門職」という言葉もしくは概念によってかねてから論じられてきた部分も少なくない。私事になるが、90年代の終わり、これから臨床に向かおうとする5年次の学生向けに行っていた生命倫理の授業は、文字通り「専門職とは何か」という問いから始まるものであった。もちろん、当時の日本で歯科医療専門職に焦点化した文献は見当たらず、WeinsteinやOzar&Sokolらによる専門職論を紹介・検討しつつ、具体的ケースに即して歯科医療における倫理問題を考察することを試みた。

オーラルヘルスを含む健康と生命の維持は高次の内在的価値であると同時に、さまざまな価値実現のために必要な条件でもある。そのような、社会が高度に価値ありと判断するものの提供を使命とするからこそ、歯科医療職は社会の信託を受けた「専門職」のひとつに数えられている。委ねられているものの重要性ゆえに、そこで要請される知識も判断力も実践的スキルもきわめて複雑かつ精妙なものとなる。そこに専門職技能の排他的独占性の理由があり、専門職自身による教育や自己統制の重要性もまた浮き彫りになってくる。

そのうえで医師患者関係や医療資源の配分などについても論じられてきたのであれば、日本の歯科医療において今日プロフェッショナリズムの必要性を強調することは、屋上屋を重ねるようなことなのであろうか。そうではあるまい。専門職を取り巻く社会的環境が変化するとともに、専門職自身の自己理解の仕方もまた変化せざるをえない。九州歯科大学の多くの同僚に協力を仰いでRule&Veatchの*Ethical Questions in Dentistry* (1993)の翻訳に取り組んだ時、そこにはProfessionalismに関する独立した章は含まれていなかったが、2004年刊行の第2版では“The Structure of Professions and the Responsibilities of Professionals”と題する章が新たに付け加えられ、専門職の歴史や定義ばかりでなく、近年の専門職(概念)批判の問題も取り上げられている。

当日は、医療人プロフェッショナリズムをめぐって議論されている倫理的問題の今日的様相とその背景について検討を加えるとともに、それを専門職の自己統制・自律という課題に関連付けられればと思う。

やなぎさわゆうご

柳澤有吾 先生 プロフィール

略歴

昭和59年 3月 京都大学文学部哲学科卒業

平成 2年 3月 京都大学大学院文学研究科博士課程(哲学専攻)単位取得満期退学

平成 3年10月 - 平成 5年9月 DAAD(ドイツ学術交流会)奨学生としてドイツ連邦共和国
ポツダム大学に留学

平成 7年 5月 - 平成12年3月 九州歯科大学歯学部講師

平成12年 4月 - 平成21年3月 奈良女子大学文学部助教授

平成21年 4月 - 現在 奈良女子大学研究院人文科学系教授

セッション2 医療人プロフェッショナリズム教育

特別講演 3

座長 西原達次 (九州歯科大学理事長・学長)

医療プロフェッショナリズム教育 ～理論と原則～ Teaching medical professionalism: Theory and principles



北海道大学病院 卒後臨床研修センター 特任准教授

宮田 靖志

医療技術、医療構造、社会や患者の医療に対する意識、医療者の職業意識などの進歩や変化により、医療専門職者と患者・社会との関係は一昔前とは大きく変化してきている。両者の間には、ときに冷たい対立関係さえも見られるようになってきている。このような状況の中、医療専門職者と患者が相互に協力し、今一度より良い医療をつくっていくために、医療プロフェッショナリズムが注目されるようになってきており、生涯教育を含めた多くの医学教育カリキュラムにおいては、プロフェッショナリズムがアウトカムとして設定されるようになってきている。

プロフェッショナリズムの基盤となるのは医療専門職者と社会との間に交わされる社会契約という概念であり、医療専門職者は公共の善のために尽くす必要があり、これと引き替えに医療専門職者の側には自律性などの特権が社会から供与される。2002年に発表された“米欧合同医師憲章と医のプロフェッショナリズム”では、プロフェッショナリズムの3つの基本原則と10の責務が示され、プロフェッショナリズムの定義が整理された。現在はこれを用いてプロフェッショナリズム教育が行われることが多い。

プロフェッショナリズム教育カリキュラムを考える上で重要なことは、プロフェッショナリズムの認知的基礎を明示的に教えることと、心に訴えかけるような体験から学べるようにすることである。この両者を継続的に行っていく必要がある。後者のひとつとしては物語に基づくプロフェッショナリズム教育があり、ロールモデルからの学び、自己の気づき、物語能力、コミュニティへの奉仕による教育が試みられている。

実際の教育方略における鍵は省察（振り返り）である。個々の患者、社会と向き合う最前線の混沌とした医療実践の中で省察を繰り返し、自己変容の学習につなげることが重要である。これによって真のプロフェッショナル（専門家）が創られる。省察によってプロフェッショナリズムを涵養し、プロフェッショナルを育成するために教育者に求められるのは、相互批判のない安全な学習環境を用意すること、ダイアローグ（対話）通して同僚間での協同学習を促すことである。

みやたやすし

宮田靖志 先生 プロフィール

略歴

昭和63年 3月	自治医科大学卒業
昭和63年 4月～平成 2年 6月	愛媛県立中央病院 (研修医)
平成 2年 7月～平成 5年 5月	明浜町国保狩江診療所 (所長)
平成 5年 6月～平成 7年 5月	町立宇和病院 (内科医員)
平成 7年 6月～平成 8年 5月	愛媛県技術吏員. 自治医科大学附属大宮医療センター (非常勤医員)
平成 8年 6月～平成12年 5月	広見町国保三島診療所 (所長)
平成11年 6月～平成12年 5月	自治医科大学臨床講師 (地域担当)
平成12年 6月～平成14年 8月	札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座 助手
平成14年 9月	札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座 講師
平成14年10月～平成16年 3月	JA 北海道厚生連地域医療研修センター札幌厚生北野病院 (主任医長)
平成15年 4月～平成16年 3月	札幌医科大学医学部 臨床助教授
平成16年 7月～平成18年 2月	Harvard Medical School/ Beth Israel Deaconess Medical Center. (Research Fellow)
平成18年 4月～平成19年 3月	札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座 講師
平成20年 4月～平成22年 3月	札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座 准教授
平成22年 4月～現在	北海道大学病院・卒後臨床研修センター 特任准教授

資格

日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会専門医
日本気管支学会気管支鏡専門医
日本老年医学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
博士 (医学) 学位取得 (札幌医科大学)

所属学会

日本内科学会 日本プライマリ・ケア連合学会
日本医学教育学会 日本呼吸器学会
日本老年病学会 日本呼吸器内視鏡学会
日本消化器内視鏡学会
American Academy of Family Physician
Association for Medical Education in Europe (AMEE)

セッション2 医療人プロフェッショナルリズム教育

特別講演 4

座長 俣木志朗 (日本歯科医学教育学会理事長)

歯学教育における螺旋型プロフェッショナルリズム教育のススメ

An encouragement of the spiral professionalism education in the dental education



九州歯科大学 総合診療学分野 准教授

木尾 哲朗

昨年の第1回シンポジウムから今回のシンポジウム開催に至るまでに、歯科医学教育者のみならず多くの医療系教員とプロフェッショナルリズム教育について議論する機会に恵まれた。その際、歯科医学教育者からいただいたご意見の多くは、「プロフェッショナルリズム教育は歯科医学の教育に必要なだと思う」というものであった。しかし、同様に多い意見としては「プロフェッショナルリズムと言う言葉が包含する意味の範囲やプロフェッショナルリズムの教育方法がよくわからない」というものであった。その理由を考えてみると、プロフェッショナルリズム自体が日本人にはなじみの薄い「社会との契約」を基盤としていることや、日本語の「プロ」という言葉自体が幅広い意味を包含していること、professionalとspecialistという異なる英語の和訳として「専門家」という日本語が定着していること等が考えられる。

日本医学教育学会倫理・プロフェッショナルリズム委員会は2011年に医師養成課程におけるプロフェッショナルリズム教育の導入と具体化についての提言¹⁾ 中でプロフェッショナルリズム教育の円滑な運営に望ましい要件として以下の3つのポイントを掲げている。

- 1) 所属施設全体による積極的な支持と情報共有
- 2) 教員・指導者の意識改革と教職員研修
- 3) 組織や施設全体の文化を適応させる評価・改善プログラムの作成

プロフェッショナルリズムを備えた歯科医師の養成は社会のニーズであることから、医学教育のみならず歯学教育においても上記のことを視野に入れてプロフェッショナルリズム教育について議論し、推進することが重要であると考えている。

プロフェッショナルリズム教育では気づき (self-awareness) を促進することが重要であり、そのためには学習者自身による省察 (reflection) の場作りとファシリテータによる適切なフィードバックが鍵となる。今回は、九州歯科大学で行っている歯科医療人プロフェッショナルリズム教育の二本の柱、すなわち“繰り返し行う螺旋型教育”と演者が考える学習者のレディネス (準備状況) に応じた“日本版プロフェッショナルリズム教育の三層構造”を紹介し、その具体例についてお話ししたいと思います。

1) 宮田靖志、野村英樹ほか：提言 医師養成課程におけるプロフェッショナルリズム教育の導入と具体化について。医学教育42. 123-126. 2011.

このおてつろう

木尾哲朗 先生 プロフィール

略歴:

- 1984年 3月 九州歯科大学卒業
- 1988年 3月 九州歯科大学大学院歯学研究科(歯科矯正学専攻)修了
- 4月 九州歯科大学 助手(歯科矯正学講座)
- 1990年 4月 九州歯科大学 講師(学長辞令)
- 1998年 4月 米国ワシントン大学Visiting Professor(～99年3月)
- 2006年 4月 公立大学法人九州歯科大学講師(医療人間形成学講座総合診療学分野)
- 2007年 4月 九州歯科大学新入生合宿研修(WADSキャンプ)実施委員長(～現在)
- 九州歯科大学附属病院 臨床研修歯科医合宿研修実施委員長(～現在)
- 2009年10月 公立大学法人九州歯科大学 准教授(総合診療学分野)
- 九州歯科大学附属病院 臨床研修センター副センター長(～現在)
- 2010年 4月 日本歯科医学教育学会倫理教育改善(現倫理・プロフェッショナルリズム)専門委員会委員(～現在)

主な著書および論文

- ・木尾哲朗: 歯科から見たプロフェッショナルリズム教育「プロフェッショナルリズム教育をどう育むか」. 日本歯科医学教育学会雑誌. 印刷中.
- ・D. Nash, J. Ruotoietenmaki, A. Argentier, T. Konoo *et al.*: Profile of the health care team in countries with developing economies. Eur J dent Educ.12.Global Congress on Dental Education III:111-119. 2010
- ・木尾哲朗ほか: 日本と欧米の歯学教育におけるプロフェッショナルリズム教育. 岐阜大学医学教育開発研究センター編. 新しい医学教育の流れ: 65-69 三恵社; 愛知 2009.
- ・T. Konoo, YJ. Kim, GM. Gu and GJ. King: Intermittent Force in Orthodontic Tooth Movement. J. Dent. Res. 80 (2): 457-460, 2001.

資格

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 歯科医師臨床研修指導歯科医 | 臨床研修指導歯科医プログラム責任者 |
| 日本矯正歯科学会認定医、指導医 | 日本歯科医療管理学会認定医 |
| 福岡県手話奉仕員 | |

所属学会

- | | | |
|--|----------|------------|
| International Association for Dental Research | | |
| International Journal of Experimental Dental Science (International Editorial Board) | | |
| 日本歯科医学教育学会 | 日本医学教育学会 | 日本歯科医療管理学会 |
| 日本矯正歯科学会 | 日本口腔診断学会 | 日本総合歯科協議会 |
| 医療コミュニケーション研究会 | 日本顎関節学会 | 日本小児歯科学会 |
| 九州矯正歯科学会 | 九州歯科学会 | |

セッション2 医療人プロフェッショナリズム教育

特別講演 5

座長 富永和宏 (九州歯科大学附属病院副院長)

医療人プロフェッショナル教育は必要か

Why we need medical professional education ?



岐阜大学医学部医学教育開発研究センター 教授

藤崎 和彦

20世紀の終わりから21世紀初頭にかけて、世界の医学教育において医療人プロフェッショナル教育の必要性が急速に認識されるようになってきている。

しかし一方では、医療人教育の中にプロフェッショナル教育などは必要ではないという考え方も依然、存在しており、プロフェッショナリズムみたいなものわざわざ教えられなくても放っておいたら自然に身につくものであるという意見からプロフェッショナリズムみたいなものは人間性みたいなものであって、たとえ教えたとしても必ずしも身につくものではないという正反対の意見まで存在している。

本報告ではこういった不必要論を念頭に置きつつも、医療人プロフェッショナル教育をめぐる世界的な動きとわが国における必要性について、

①なぜプロフェッショナリズムが強調されるようになってきたか、
②なぜ医療人教育の中にプロフェッショナリズムが入ってきたか、
③なぜ現代の日本で医療人プロフェッショナル教育が求められているのか、
を改めて確認しておさらいしたうえで

④そもそもプロフェッショナリズムの教育は可能なのか、
という本報告の主題についてあらためて不必要論についての検討をしながら考察し、
参加者とともに医療人プロフェッショナル教育の必要性について検討していきたい。

ふじさきかずひこ

藤崎和彦 先生 プロフィール

略歴

- 昭和60年 3月 北海道大学医学部医学科卒業
- 平成 1年 9月 大阪大学大学院医学研究科博士課程単位取得退学
- 平成 1年10月 奈良県立医科大学衛生学教室助手
- 平成13年 4月 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター助教授
- 平成17年 6月 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授
- 平成18年 7月 厚生労働省第101～106回医師国家試験試験委員(平成24年3月まで)

主な著書・論文

- ・『シミュレーション医学教育入門』日本医学教育学会教材開発・SP小委員会編 篠原出版新社、2011
- ・『医学教育白書2010年版』日本医学教育学会編、篠原出版新社、2010
- ・『医療コミュニケーション：実証研究への多面的アプローチ』藤崎和彦/橋本英樹編著、篠原出版新社2009
- ・『行動変容をうながすための面接スキルー保健指導対人援助スキルの学習』藤崎和彦、日本生活協同組合連合会医療部会、2008.
- ・Yasuyuki Suzuki, Trevor Gibbs, Kazuhiko Fujisaki "Medical education in Japan: A challenge of the healthcare system" (共著) Medical Teacher, Vol. 30, 846-850, 2008
- ・Yoshida T, Fujisaki K. "Interpersonal Communication Training in Dental Education"(共著) "Behavioral Dentistry" ed.by D. I. Mostofsky & A. G. Forgion, Blackwell, Iowa, 2006. P255-263
- ・『行動変容を生む患者・住民アプローチ』藤崎和彦、日本生活協同組合連合会医療部会 2002

学会活動

- 医療コミュニケーション研究会会長
- 日本医学教育学会教材開発SP委員会副委員長
- 日本医学教育学会医学教育専門家育成検討委員会副委員長
- 日本ヘルスコミュニケーション学会監事
- RIAS研究会日本支部(RIAS Japan)代表

セッション3 総合討論

座長 小川哲次 (広島大学病院教授)

木尾哲朗 (九州歯科大学准教授)

セッション4 ワークショップ

進行 木尾哲朗 (九州歯科大学 准教授)

Keynote Speaker 宮田靖志 (北海道大学病院 特任准教授)

テーマ

1. プロフェッショナリズムを考えよう
 2. プロフェッショナリズムの教育は必要か
 3. プロフェッショナリズムをどう教育するのか
 4. なぜプロフェッショナリズムが問題となるのか
- 

メモ



シンポジウム（第2回）「歯学士教育課程でのプロ
フェッショナルリズム教育の構築」

発行日：平成24年11月17日

発行：九州歯科大学総合診療学分野

北九州市小倉北区真鶴2丁目6-1

編集：木尾哲朗、永松浩

印刷所：AMC

北九州市小倉南区沼南町3丁目10-5